

突撃

インタビュー

日本看護学会 in 別府

眼科看護における研究の成果を発表！

去る10月7日～8日に大分県別府市にて行われた日本看護学会（成人看護Ⅰ）において、6階病棟・看護師らが日頃の看護の成果を発表してきました。そんな3人に、今後の眼科看護の目標をインタビューしてきました。

日本看護学会で日々の眼科看護の取り組みを発表することができたことを嬉しく思います。研究を活かし、今後も患者が安心して快適な入院生活を送れるような看護を提供できるように日々努力していきます。

（師長代行 足立 裕子）

今回2回目の学会参加でしたが、やっぱり緊張してしまいました。参加する度に眼科の特殊性を実感しますが、この貴重な経験を今後の看護に活かしていけるよう努力したいと思います。（鈴木 光恵）



当院における眼科手術約4,000件／年のうち、網膜・硝子体・緑内障等の手術はその約10%を占めています。私たちは術後の眼帯固定時における皮膚障害の軽減について、3年前から研究を重ねてきました。昨年の研究では、テープ固定眼帯を改良し二点固定式ゴムひも保護眼帯を作成したことで、飛躍的に皮膚障害が減少しました。そして今回、患者様への自己管理指導という点に着目し、看護師のデモンストレーション・ポスター作成・パンフレットによる指導等を検討・改善することで、患者様の自己管理意欲の向上へと繋げることができました。

学会発表を通して当院の眼科の質の高さを改めて実感するとともに、より質の高い眼科看護を目指して頑張らなくてはならないと思いました。（中野 あけみ・・・発表者）